



おしえの花束

雲晴

「雲 晴」第四号

平成二十四年九月一日発行

貞 林 院 瑞 正 寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五
電話 (03) 3627-1341
FAX (03) 5699-5915

— 青色 青光 —

『阿弥陀経』という経典は、阿弥陀仏のおられる極楽世界の光景を描写したものです。そのなかに、

「青色青光。黄色黄光。赤色赤光。白光」といった言葉があります。

これは、極楽世界に大きな池があり、さまざまな色の蓮の花が咲いている。そして、青色の蓮の花は青い光を、黄色いものは黄色の光を、赤いのは赤い光を、白いものは白い光を発している、といった意味です。なんだ、あたりまえではないか……と思われませんが、じつはそのあたりまえが極楽世界なのです。

わたしたちの人間世界では、たとえば青色

を頭のいい子、黄色を頭のよくない子とすれば、青色は青く光ってよいが、黄色は青く光らせたいと思っています。だとすれば、「青色青光。黄色青色」になってしまいます。これは、あたりまえではありません。

次に、黄色を金持ち、赤色を貧乏とすれば、金持ちは金持ちのまま光っている（幸福である）、貧者は貧者のまま光っている（幸福である）、というのが「黄色黄光。赤色赤光」。しかし人間世界では、貧者が金持ちになりたいたいと思うから、「黄色黄光。赤色黄光」になってしまいます。

健康な人（赤色）は健康で幸福であり（赤光）、病人（白色）は病人のまま幸福だ（白光）というのが極楽世界。病人は不幸だと考えると、「赤色赤光。白色赤光」になってしまいます。

わたしたちは、みんなあるがままで幸福なんだ——というのが『阿弥陀経』のメッセージなのです。

今年の夏はオリンピックに沸いた夏でした。寝不足になってしまった方も多いと思います。

オリンピックの開幕前にテレビでハンマー投げの室伏広治選手の特集を見ました。

年齢とどう向き合っているのかという内容の番組でした。

五輪に想う

宗慶寺住職 本多宗敬

年齢による体の変化と向き合い、以前の力に頼った投てきから、効率と安定性を重視した投てきへと変えていったそうです。その過程で参考

生・老・病・死に代表されるような苦

にしたのが、赤ちゃんの動きでした。筋肉が発達していない赤ちゃんが、体を回転させて寝返りを打つ動きを参考に、新しいトレーニングを始め、新しいフォームに変えたそうです。

しみの伴う変化の「無常」はなかなか受け入れる事ができません。「諸行」の中の多くの変化は受け入れたい「無常」ではありますが、輝かしい実績のある室伏選手が、今までの方法を

えて新しい方法を模索して

いる姿を見て、私も、受け入れ難い「無常」を受け入れ、その上で向上心を持って日々を歩まねばならないと、改めて感じました。

今やめさせます。」

「いやなんとも言えずいい匂いじゃこれへ持て。」

「ガスウオにござります、お上様の召し上がるものではございません。」

「これは食べてこれは食えんというは太平の贅というもの。今日の野がけは戦の稽古じゃ。サンマを食すも戦の稽古と心得よ。」

殿様の言い分に道理があるんだから仕方がない。訳を話しサンマを百姓家から分けてもらい、お殿様の前に出しました。一口食べて驚いた。こんなうまいもの食べたことがない。

新の泉

落語の世界を訪ねて



これはさるお殿様のお話で、秋になり気候もよく秋晴れの日に馬に乗り郊外まで野がけを楽しみました。「今日はよく走ったのう、ここはなんとう場所じゃ。」

「は、中目黒にござります。」

「風光明媚じゃのう。ところですかし腹がすいたが。」

「申し上げます。本日は屋敷の周りを

「作用か、仕方がないの。ウーシンクン、何か異な匂いがあるの。」

「近くは百姓家で、昼餉の菜にサンマ(秋刀魚)という魚を焼きおります、

法話

感謝と反省

煩惱はよく一〇八あるといわれますが、基本的なものは次の六つです。

- 一、貪(とん) むさぼり・欲望の心
- 二、塵(じん) 怒り・反撥する心
- 三、痴(ち) 迷い・愚かな心
- 四、見(けん) 誤った見解
- 五、疑(ぎ) 疑いの心
- 六、慢(まん) うぬぼれ・高慢な心

ある時瀬戸内寂聴師が凡夫とは「オバカサン」であり、さらに「良いと分かっていながらできないオバカサン」と「悪いと分かっているがらしてしまおうバカサン」がいること、そしてよく考えてみるとみんなオバカサンであると、話されていきました。正しい宗教心を持つことの第一歩は、自分自身のありのままの姿に気づき、自分自身が煩惱だらけの凡夫であると自覚することではないでしょうか。善導大師は「泥池にこそ清らかな蓮の花は開きます。煩惱を持った心こ



鎌倉時代以前の諸宗派

一天台宗 ①

鎌倉時代の諸宗派と題して、鎌倉時代に成立した主な諸宗派を紹介してきました。鎌倉時代以前の成立ではありますが、今まで紹介してきた諸宗派と関わりの深い天台宗と真言宗についてもご紹介したいと思います。

まずは天台宗から紹介いたします。天台宗は中国の天台智者大師智顛を始祖とし、比叡山を開創した伝教大師最澄を始祖とする宗派です。「法華円宗」「天台法華宗」「天台」「台宗」「山家」とも称します。また、今まで紹介してきた各宗派の開祖の師方がそれぞれ一度は修行した比叡山延暦寺を総本山としています。

天台宗の起源は中国の南北朝時代末期から随時代の智顛が開いた、『法華經』を中心にした中国天台宗によります。日本天台宗を開いた最澄は延暦三三年（八〇四）、三八歳の時に唐（当時の



中国に渡り、天台山で天台教学を相乗し、円頓菩薩戒をうけて天台宗第八祖となりました。さらに、密教や禅についても学びました。帰国後、比叡山を拠点に中国で学んできた、円（天台）・戒・密・禅の四宗を融合した天台宗を興しました。また最澄は帰国時に二百三十部四百六十巻もの典籍を請い受けて、中国から持ち帰りました。

中国天台宗に他の要素も加えて日本天台宗を興し、多くの典籍を日本に持ち帰ったことは、八万四千ものお教えがあると言われる仏教の教えが、全ては同じ悟りに至る方法の一つでもあるという思想に基づいていると言えます。最澄は、中国天台宗の教えを基盤としながら仏教の総合化を目指していったと言えるでしょう。鎌倉時代に成立した諸宗派を開いた諸師方が皆、比叡山で天台宗を学んでいたことがそれを表しているように思います。

「なんとという美味じゃ、サンマと申すか、上なるものじゃ、かわりを持って。」
 かわりを持って、かわりじゃとなんとサンマを五匹以上召し上がった。
 「お殿様に申し上げます。ここでサンマをお召し上がりになったこと、ご内密にお願い申し上げます。ガスウオを差し上げたこと重役にされますと我らの落度となります。」
 「よしわしは言わんぞ。」

「サンマを食したい。」
 さあ大変です、人を魚河岸に走らせ、生きのいいサンマは手に入りましたが、どう料理していいかわからない。考えた末つみれ汁にしました。
 お殿様黒くて長いものが出てくると思いきや、赤くて丸いお椀の中につみれがひとつ、しかしかすかにサンマの匂い、一箸食べたがまずいまずい。
 「サンマか、どこでとれた。」
 「はい、魚河岸の申しますのに房州沖の魚だそうです。」
 「何、房州？それはいかん、さんまは目黒に限る。」



そ、仏の救いの手は差しのべられませう。」とおっしゃり、法然上人も「先ず南無阿弥陀仏と称えなさい。心の迷いは自然とやんでいきます。阿弥陀様は心乱れる人々をこそお救いになってくださるのですから。」と示されました。

池の水 人の心に 似たりけり
 にごりすむこと さだめなければ
 信仰心のあつい人は、必ず自らの心を厳しく省みます。反省の心が生まれ、正しく省みます。反省の心が生まれてくると、正しい感謝の心がおこってくるのです。感謝と反省。大事にした言葉です。（総本山知恩院布教師 会ホームページより）

秋のお彼岸法要のご案内

お彼岸法要はお中日にご先祖様の供養を行いますので、塔婆をご希望の方は事前に電話かファックスにてお申し込みください。

日時 九月二十二日(土) 午前十一時

お寺からのお知らせ

寺の本堂入口につきましましては、防犯上いつも鍵をかけておりますので、ご利用の方はチャイムを押してください。

なお、トイレをご利用の方も遠慮なくチャイムを押してお上がりください。

寺では檀信徒の皆様には気持ちよくお参りしていただきたいと思っています。

つきましては次のことにご協力いただきますようお願いいたします。なおこのことについてご親戚などにもお伝えしてご周知ください。

①お墓へのお供え物(ビール・お酒・ジュース・果物・お菓子等)はご遠慮ください。

もしお供えをした際は、お参り後お持ち帰りくださるようお願いいたします。

*ホームレスなどが無断で墓地に入ってくる原因となります。またカラスなどが集まり食い散らかすなど墓石を汚すこととなります。

②お墓の花を処分する時は、水屋にあ

りますハサミで細かくしてからゴミ箱に捨てるようにご協力をお願いします。

③自動車でお参りの際は、車内には貴重品(バックや財布等)を残さないようにしてください。以前、寺の駐車場で車上荒らしの被害がありました。



東日本大震災被災者の

仮設住宅を慰問(第二回)

七月二十七日に福島県いわき市にある仮設住宅を再度慰問しました。

午前中は前回と同じ高久地区の仮設住宅に行きましたが、四カ月振りの訪問にもかかわらず「東京からまたきてくれて嬉しい」との声に救われたような気がしました。

このような住民との交流会は、地区の集会場を借りて行われますが、入居から一年以上が経ち、地域のコミュニティーも徐々に形成されてきたようです。

入居の方からは「私たちは仮設住宅に入れて良かった。借上げ住宅(市営住宅や借上げの民間アパート等)に入

居した人たちは地区もばらばらで知り合いもなく、よそ者として近所との付き合いもなく、孤立した生活を送っているのが気の毒でしようがない」というお話がありました。

老夫婦や一人住まいの高齢者にとっては尚更のことであり、やはり辛い状況の時こそ人とのつながりが大切であることが分かりました。



位牌や墓石の質問も受けました

午後は原発事故により仮設住宅に避難している地区を訪れました。

この地区には福島から避難している方々が住んでいます。ふるさとがあるのに帰れない、一時帰宅を許されて目にした自宅、それは草が伸び放題で荒れはてた我が家だったそうです。

我々僧侶を前にして出た言葉は「お盆やお彼岸に墓参り行けず、ご先祖の供養もできないことが一番辛い」とのことでした。

仮設住宅は三年契約とのことですが、

被災地の復興は依然進まず、原発避難地域に至っては何十年先になるか分からないという状況です。我々としては、これらの仮設住宅から最後の一人がいなくなるまで、この活動を続けていきたいと思っています。

書道展「救水清秀書展」のご案内

先代林錦洞が主宰しておりました、「救水書人社」主催の書道展は、毎年

十月に銀座で開催されております。書道に興味をお持ちの方はどうぞご来場ください。

日時 十月二十三日(火)～二十八日(日)

場所 「東京銀座画廊・美術館」

中央区銀座二十七十八銀座貿易ビル八階

TEL 03-3564-1644

◇浄土宗一ロメモ◇

「浄土宗の本山について」②

「三緑山増上寺」

港区は東京タワーのそばに位置し、関東の大本山の一つです。

一三九三年西暦聖徳太子により開山され、一五九八年現在地に移転、徳川家の菩提寺として家康公の保護により隆盛しました。二代秀忠公をはじめ六人の将軍の墓所などがあります。浄土宗の僧侶になるための修行は、京都知恩院が増上寺のいずれかで受けなければなりません。(貞林院瑞正寺)